

「新人スタッフへの事故防止の指導体験」

北海道クリーン・システム株式会社 横濱 いずみ

私は、浦河町と様似町を所管する男性女性合わせて47名が所属する営業所の清掃スタッフの一員として、オーナー様が安全、安心、快適に施設をご利用頂けるよう日々業務に努めています。

ここ数年、様々な業界において少子高齢化による人手不足は深刻な社会問題となっていますが、私が勤務する清掃業界においては浦河町のような小さな町における影響は甚大で、求人募集をかけても問い合わせすら来ない状況が続いています。

そんな中、私が清掃業務を担当する施設に6月から新人女性スタッフのAさんが入社することになり、所長から新人教育係を頼まれました。

入社してからというもの指導経験は全くありませんでしたが、これも何かの縁と思い、快く引き受けることにしました。

Aさんは70歳台で清掃経験は私よりも長い方でした。気さくなお人柄だったこともあり打ち解けるまでに時間はかかりませんでした。

早速、初日から数日かけて指導をしながら、二人でトイレや廊下、玄関等の清掃を順番にこなしていく中、課題もいくつか見えてきました。

それは階段や事務所内の清掃時に足元ばかりを見て作業をしているため、周囲の変化に気を配っていなかったということです。

これは最悪の場合、作業中に気付かずにお客様と衝突し、怪我をして（させて）しまう重大事故に繋がることから、Aさん一人で全作業が出来るようになった次のステップとして、私はこれらの危険箇所での事故防止についての指導を行うこととしました。

1. 階段清掃時における事故防止

想定される事故として、踏み外しや前後の不注意による転倒や転落、そして第三者傷害の可能性があります。

その対策として、踏み面や踊り場での掃き拭き清掃時は、2～3段の間隔で上下に人がいな

いことを確認することとし、上り下りするお客様がいらっしゃる場合は、壁に寄り、お声掛けをし、先に通行して頂くことで、未然に事故を防ぐという決まりを定めAさんと共有しました。

2. 事務所清掃時における事故防止

想定される事故として、事務所内は多数の人が行き交うため、箒やモップの柄部分の接触、床への躓きや転倒の可能性があります。

その対策として、前述の階段清掃と同様に床面の掃き拭き清掃の際、2～3回拭いたのち周囲を確認し、お客様を最優先とした行動に徹することとしました。

このような様々な取り組みを経て、始めは安全確認と清掃作業の同時進行に不慣れなAさんでしたが、繰り返し指導をしていく中で、少しずつですが心の余裕も出来、現在も事故や怪我もなく業務に励んでくれています。

Aさんからも「少しでも人の役に立てる仕事が出来るので楽しい」「仲間やオーナー様がとても親切にしてくれるので清掃業務にやりがいを感じる」等のポジティブな言葉をいただきました。

また私自身も今回の経験は、清掃作業や安全教育に対する指導の大変さや苦労はありましたが、以前よりも『スタッフやオーナー様にとって安全とは何か』『より良い清掃業務とは何か』を見つめ直すことができ、どのように行動すべきかを考える良い機会となりました。これからもお互いに疑問点や改善点があれば意見や提案を持ち寄り、実践と検証を繰り返しながら、事故防止と共に業務のさらなる改善に繋げていきたいと思っています。

私たちの役割とは、施設をご利用されるお客様がいつでも満足して頂ける快適なサービスを提供すること、安全かつ安心な空間を作ることだと考え、今後も仲間達と業務に取り組んで参ります。

「労働災害をなくすためにできる事」

北海道クリーン・システム株式会社 高橋 正 幸

労働災害を予防するためには各労働場所でのリスクを把握する事が最も大事だと考えられます。

各労働場所でのリスクを特定し、それに応じた対策をし、リスク管理の徹底を図り、最適化された環境下で作業を実施させる事で労働災害は予防できます。

労働災害予防策としての取り組みを5つ挙げます。

1つ目は従業員に対して適切な指導教育や実務研修を実施する事で労働災害防止に役立つ重要な勉強会となり、自分や同僚の安全を守るために必要不可欠な知識やスキル習得をする事により更に安心安全な業務を遂行できます。

2つ目はヒヤリハットの確認です。

朝礼や点呼、普段の会話でヒヤリハットが発生した際には必ず報告してもらうよう従業員に促し、指定様式に発生した場所や時間等どのような内容だったのかを詳しく記入してもらい、管理者側がその案件に対しての防止策を的確にコメントしてあげる事で従業員が通勤中や作業中の危険予測判断材料になります。

3つ目は安全靴やヘルメット・防護服等ツール関連を作業内容に適した物に選定する事です。

過去にすり減ってしまった安全靴で雨の日の作業中に滑って転びそうになった事があります。あまりに古いツールは使用せず、それぞれの作業に適したツールを管理者と従業員が相談して選定をして作業に使用し、使用後に不具合等あれば更なる選定をする、といった方法で最適なツールを見つけて使用する事で安心安全な環境下で作業ができます。

4つ目は従業員の健康管理等です。

定期健康診断を受診させた後は各従業員がどのような健康状態なのか管理者が把握し、面談等で相談してあげる事で各従業員が安心して働く事ができる環境を作り上げる事ができ、その

結果労働災害防止の大きな役割を担う事ができます。それに伴い適切な休息时间・休日も管理者が把握する事でより良い労働環境が作られていく事ができます。

5つ目はメンタルヘルスの不調を抱えている従業員に対してのサポートです。

悩みや不安を抱えている従業員に対して管理者がしっかり傾聴し、適切なサポートをする事や場合によっては受診を促す対策を取る事で労働環境を整えてあげる事ができます。

管理された元でもし労働災害が発生してしまった場合は、事故・怪我の原因を明らかにするための調査をしっかりと実施し、適切な報告を済ませた後同様の事故・怪我を二度と発生させないため、再発防止策を従業員一同が一丸となって考えて、再発防止策を講じなければなりません。

労働災害防止とは事故・怪我を起こした従業員だけの責任ではなく、雇用側・管理者側にも責任があります。

他で発生してしまった労働災害や管理者側が想定した労働災害を参考にして、いろいろな角度からリスク管理・再発防止策を考える事も可能だと思うので、そのような講習会を社内で定期的に開催し、従業員一同で労働災害に対して真剣に向き合い、労働災害を絶対に発生させないための再発防止策を考えていく事で、一件でも労働災害を減らす事ができます。誰もが起こしたくて事故・怪我を発生させている訳ではありません。

残念ながら発生してしまった労働災害に対しては悔やむばかりではなく、絶対に労働災害を起こさないための対策を従業員一同しっかり考えて、同僚の安全と自分自身の安全と健康について強い意識をもって取り組み、安心安全で働きやすい職場環境作りを目指していきたいものです。

「事故の経験と対策の考え方」

北海道クリーン・システム株式会社 阿部 真也

誰もが起こしたくて事故を起こす訳ではない。それが経験豊富な人ならなおさらだ。事故を起こすと一番嫌な思いや損をするのは自分自身だという事を知っているからである。上司や同僚に迷惑を掛け、人間関係も悪くなり会社に損害を出してしまうかもしれない。その経験がある人は、しばらくは事故を起こさないよう気を付けて行動するだろう。しかし、そのような経験をしても時間が経てば忘れてしまうものだ。いや、覚えてはいるが無意識に行動してしまい、その結果が事故になってしまう事もあるだろう。

その経験を伝えて事故例を検討し、原因を洗い出して対策を立て、皆で共有する事が重要であると思う。しかしながら対策を立てれば良いと言うものでもない。現実的に継続できる事ではない。対策のための作業を増やすと手間が掛かり、その作業をやらなくなり、あるいは忘れて対策のための対策を立てなければならなくなってしまう。私にもそういう経験はある。事故後に皆で話し合って対策を考えたが、やってみるとあまりにも手間が掛かり、誰も実践しなくなってしまった。それに対してまあ仕方がないと曖昧になってしまった。

また、事故を起こした事に対して反省し、向き合い、対策を立てる事は重要であるが、その対策を立てる事自体に満足してはいないだろうか。

ただ対策を立てれば良いのではなく、効率がよく、誰もが実践出来るものを考え、それを継続的に実行したい。一人一人が真剣に考えると良い対策も多く出てくるだろう。一つのミスに対策を数多く立て、それらを全て実行すると作業自体が多くなり、その作業にミスが出るということにならないだろうか。その選定と加減が難しく重要であると思う。

事故にも大小があるが、対策の立てづらい

うっかりや気持ち的ななどちょっとしたミスがある。そこで原因が間接的なものにも有る事に注目したい。事故には直接的な原因はいくつかあるだろう。例えば時間的な何かを失念した等であれば、ダブルチェックやアラームを掛ける等の対策が考えられる。しかし失念してしまった原因が間接的な背後要因にある事もある。自分が忘れるはずがない、あの人なら確認するまでもない等の人間関係や、普段から引き継ぎをしていない、勤務がきつく頭が良く働かない等の会社の風潮・習慣によるものもあるだろう。一番対策の難しい問題がそれであると思う。今までやってきた体制を変えるのは個人では容易かもしれないが、会社全体が変わるのは簡単ではないだろう。個人への対策だけを立て続けるのではなく、組織として事故の問題・対策に取り組み、誰もが遠慮せずに正直に意見を出すことが出来る職場環境を作る事が大切である。ひと昔まえであれば事故を起こすと一方的に責められ、気合が足りないと言われ、正直な意見を言えない環境が多く有った事だろう。今は改善されつつあると思うので、意見は出しやすいだろう。本人が考える一番の原因に対策をするのが最良であると思う。

事故を起こした本人の反省はもちろん必要だが、上司・同僚もまた自分だったらこうする、こう防ぐ等一人一人が考え、誰もができる対策を考えて共有する事が重要であり我々が実践できる事で、次は自分かもしれないと危機感を持って行動すれば、防げる事故も多いのではないだろうか。結局は気持ちの問題が大きいが、ヒヤリハットを真剣に自分の事と捉えて行動すれば事故も減るだろう。

ヒヤリハットが起こった時に注意喚起すると同時に、提出した者を褒める事が出来る組織であって欲しいし、私自身でもそのような環境を作っていきたい。

※「銀賞」対象なし

令和6年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

変わる時代に変わらぬ基本、磨いた技術で、安全作業

ライラック興業(株) 山 森 大 悟

気を付けよう 覚えたときより 慣れたとき

北海道クリーン・システム(株) 清 水 明 子

(銀賞：対象なし)

銅賞

危ないよ！ 伝える勇気と 聞く心 みんなで守る 安全職場

北海道クリーン・システム(株) 中 田 顕

いつもと違う「おはよう」で、気づいてあげよう心の変化 みんなで築こう明るい職場

ライラック興業(株) 立 崎 司

事故のもと したはず 見たはず 思いこみ

(株)東洋実業 神 保 和 憲

ヒヤリに潜む 危険の芽 今すぐ 摘み取り 0災職場

SSKファシリティーズ(株) 竹 谷 信 隆

便利さに 慣れて忘れる 基礎動作 焦らず 慌てず 確実に！

北海道互光(株) 平 岡 弘 光

佳作

あいさつで つながる心 大切に

北菱産業埠頭(株) 蛇 名 真衣子

あいさつと 報・連・相で 「ゼロ災害」

北海道クリーン・システム(株) 吉 田 孝 一

焦らず無理せず油断せず 危険予知して安全作業

協和総合管理(株) 太 田 卓 也

慌てた時ほど焦らずに 気持ちに余裕で 無災害

北海道クリーン・システム(株) 小 澤 真知子

安全は 守る自覚と 続ける努力

北海道クリーン・システム(株) 藤 垣 小夜子

思い込み やったつもりが 事故のもと

オホーツク美装興業(株) 垂 水 清 人

※令和6年8月応募作品より選出

気配り 目配り 再確認 みんなで守ろう 安全職場

北海道クリーン・システム(株) 三 浦 ひとみ

気を付けて 油断と焦りは 事故のもと

名寄美装工業(株) 山 崎 未 貴

声掛けで 気付く危険と 心の不調

SSKファシリティーズ(株) 川 橋 正 彦

災害は 慣れと油断と気の緩み 抜くな点検 省くな手順

日本クリーン北海道(株) 齊 藤 裕 子

信頼は 真面目な作業の 積み重ね まごころ込めて 清掃を

(株)東洋実業 野 坂 靖 子

誰かより あなたが発見 ヒヤリの芽

中央ビルメンテナンス(株) 小 口 眞 由

小さな気づき 共有化 伝えることで事故防ぐ

北海道クリーン・システム(株) 梅 津 真 紀

小さなヒヤリは危険の合図 今すぐ改善 ゼロ災職場

(株)クリーン開発 工 藤 香 織

手を抜かず きっちり摘もう 危険の芽

(株)ベルックス 工 藤 幸 喜

慣れた作業に潜む危険 視点を変えて安全確認

北海道クリーン・システム(株) 玉 置 仁 雅

慣れと油断が 大事故に 意識高めて 無災害

北海道クリーン・システム(株) 構 口 誠

ひと呼吸 心のゆとりが命を守る みんなで守ろう安全職場

ライラック興業(株) 堺 清 彦

見過ごすな 感じた時に 確認を

(株)トーショウビルサービス 吉 田 聖 史

良い事も思うだけでは伝わらない、みんなで出し合う安全ポイント

北海道クリーン・システム(株) 伊 藤 勝 仁

忘れるな ヒヤリで済んだ事故のもと 意識を高めて事故防止

北海道クリーン・システム(株) 飛 島 幸 平

※令和6年8月応募作品より選出